

令和7年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

県北会場

科目 ②防災に関する知識と防災を取り入れた暮らし方

- ◆ 「防災」という言葉は最近よく耳にする。今までは「防災」とは備えることだと思っていたが、そうではなく「命を守る行動」だと改めて分かった。職業柄、子どもと接する毎日なので、我々支援員の役割でもある子どもを安心させることや、命を守る行動を心がけたい。子どもと共に防災意識を高め、災害時に備えたいと思う。研修で得た知識を活かし、今日からできる小さな一歩を踏み出したいと思う。
- ◆ 災害は日常の延長ととらえて、もっと深い訓練や備えが必要だと思った。高学年なら役割を与えて任せる、訓練の中で年齢別の関わり方も身につくなど、いい話が聞けてよかった。大人の状況判断は子どもの安全安心に直結するので、支援員同士落ち着いて行動できるように心がけたい。自分の靴がすぐ分かるように動線を考えたり、置き場所や使い方を説明したりするなど、事前にしておく課題も見つかった。話し合って毎月の訓練に取り組みたい。
- ◆ 私たちは子どもたちの命を守ることも仕事の一つである。防災とは備えることではなく、命を守る行動であること、普段の意識と工夫が防災につながるということを学んだ。また、グループワークでのヒヤリハットの事例から環境の重要さを感じた。災害は自然災害だけでなく、いつ誰に起こるか分からない。子どもたちと一緒に、起きることを想像することが必要だと思う。子どもたちも自ら命を守る行動ができるようになるよう努めていきたい。
- ◆ 身近で起こりうる災害のリスクについて改めて考えを深めることができた。定期的に避難訓練を行っているが、実際に災害が起きて子どもたちがパニックになったときに、どう対応するのも考える必要があると感じた。また、子どもたちと一緒にハザードマップを確認することで、子どもたち自身も防災について考える機会を作りたい。いつ災害が起きても、落ち着いて命を守ることができるよう日々の防災意識を高めていきたい。
- ◆ 防災とは災害を防ぐことではなく、災害が起きてしまったときを想定して何を準備し、どう判断して行動するかを日頃から意識することが大切だと学んだ。靴は避難時に履きやすいよう決まった場所にそろえておく、懐中電灯は手の届く所に設置するなど、災害と日常を区切らず、普段の行動や環境が非常時の安全につながるのだと理解した。実際に非常食を食べてみたり、防災ゲームを取り入れてみたりするなどして、楽しみながら防災意識を高めていきたい。